

令和5年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知しんほんまち分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	学校像	○子どもたちが楽しく学べる学校 ○保護者が安心して子どもを任せられる学校 ○地域にとってなくてはならない存在の学校 ○教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の概要に	I 主体性を育む授業づくり・授業改善 ・自己肯定感、自己有用感を育てる支援・指導 ・指導と評価の一体化、授業改善と連動した教育課程の検討 II 職業生活に必要な力の育成 ・職業教育の系統的な実施 ・自己決定、自己選択する力の育成 ・余暇活動の充実
《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進	目指すべき姿	○知「確かな学力」を身に付けた生徒 ・基礎的な知識・技能の学びを通して、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた生徒 ○徳「豊かな心」を身に付けた生徒 ・自他を理解し、他者と協調・協働することができる力を身に付けた生徒 ○体「健やかな体」を身に付けた生徒 ・将来の社会参加(就労)に向けて、たくましく生きるための健康や体力を身に付けた生徒		III 地域貢献・地域防災 ・地域貢献活動の実施 ・防災教育の充実 IV 働き方改革 ・業務の平準化、助け合い、思いやり

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	○生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、意欲が育つよう適切な対応力を身に付ける。 ○「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶに向かう力」の育成を目指し、指導と評価を一体化して授業改善を行い、よりよい教育課程を編成する。	【現状】 ①各生徒の現状を把握し、学びに向かう意欲を育てることに重点を置く必要があった。 ②各教科の内容を重視した授業実践を行っているが、評価と改善が不十分であった。 ③ICTの活用を進め生徒がPCを使う授業が増えている。 ④開校して実際に学習活動を進める中で教育課程の見直しを付けた。 【目標】 ①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会開催:10回 ②指導と評価を一体化した授業改善 ・年間指導計画、シラバス様式の作成、検討:8月、12月 ・目標と評価、方法について研究:8月、12月 ③ICT教育の充実 ・効果的な活用方法の研修:3回以上 ・公開授業の実施:全員 ④よりよい教育課程の編成 ・検討:每学期1回以上	①生徒支援会開催 ・具体的な支援方法まで確認 ・SC、SSWとの連携強化 ②授業改善 ・校内研究で計画的な取組推進 ・高1のシラバス検討、中1・高2のシラバス作成 ③ICT機器の効果的な活用 ・教職員間で情報共有 ・GIGAスクールサポーターによる支援 ・生徒がChromebookを活用する授業の公開・協議 ④教育課程 ・授業改善と連動して検討	①生徒支援会開催 ・計画的に開催 ・SC、SSWと情報共有できた ②授業改善 ・計画的に校内研実施 ・シラバス内容検討会実施 ・生徒の学習姿勢が向上 C ③ICT機器の効果的な活用 ・各授業で活用が進んだ ・効果について検証中 ・公開授業は1名実施済 ④教育課程 ・授業改善と連動して検討中	①生徒支援会開催 継続 ②授業改善 継続 ③ICT機器の効果的な活用 ・公開授業実施を進める ・その他継続 ④教育課程 継続	B ①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会10回以上開催、情報共有、支援方法検討 ・全教職員が生徒理解に努めたと回答 ・95%の保護者が学校は子どもの気持ちに寄り添っていると評価 ②指導と評価を一体化した授業改善 ・校内研修会を計画的に開催、授業研究やシラバスの検討実施 ・全教職員が授業改善に取り組んだと回答 ・85%の生徒が授業の目標が分ると評価 ③ICT教育の充実 ・活用方法の研修、公開授業を通して効果の検討実施 ・生徒がChromebookを活用する授業を積極的に計画実施 ・GIGAスクールサポーターによる支援を授業づくりに反映 ・93%の教員が効果的にICTを活用したと回答 ・80%の生徒がパソコンを使った授業は分かりやすいと評価 ・95%の保護者が学校はICT活用に取り組んでいると評価 ④よりよい教育課程の編成に向けて検討	B ①生徒の信頼感を高めることができる授業であり、良い仲間づくりができています。教職員が一体となり仲間づくりに取り組んでいる成果である。 ②通信や連絡帳で学習の様子が分かる。 ・生徒が楽しそうな様子で授業の話をしてくれる。 ③授業参観や学園祭の様子を見るとICTが活用されていることが分かった。 ④授業参観や学園祭の様子を見るとICTが活用されていることが分かった。	①継続 ・生徒理解が重要であり、適切な支援につなげ、意欲が育っているところである。 ②継続 ・教科横断的な学習は効果がある。 ・授業改善により授業力を高めることが生徒の意欲向上につながる。 ③継続 ・ICT活用は効果があり、生徒の意欲向上、教職員の業務効率化につながる。 ・活用の幅を広げていく。
キャリア教育の充実	○生徒一人一人の多様なニーズに対応した職業教育を系統的に実施する。 ○将来の生活を見据えて、自分に必要な力について考え、行動できる力を養う。	【現状】 ①職業の授業では、机上の学習と体験的な学習を組み合わせさせて取り組んだ。ステップアップシートを作成したが、活用には至らなかった。生徒の経験不足を補いながら、自己選択、自己決定をする場面を増やし、働くことへの意識を高めていく必要がある。 ②現場実習を経験して、自分が働くという経験ができた。 ③休憩時間の過ごし方や良好な人間関係を築くことに課題がある。 【目標】 ①ステップアップシートの活用 ・自ら考える振り返りの時間設定:実習前後 ②保護者や福祉、事業所との連携 ・情報提供:進路便りの発行年間3回以上 ・実習先、進路先の確保:年間30件以上 ・個別懇談会、職場見学の企画運営 ③余暇活動の充実 ・図書室の利用促進:生徒会活動の開始 ・クラブ活動の充実:入部者数の増加	①働く力のスキルアップ ・JSP制度による専門家の指導・助言 ・ステップアップシートの活用促進 ②連携 ・保護者への情報提供 ・職場見学による意識の向上 ・現場実習、デュアル実習の実施 ・個別懇談会による保護者、福祉、学校間の情報共有 ③余暇活動 ・図書室整備 ・利用ルールの周知 ・生徒会による図書活動 ・各クラブへの体験入部を促す	①働く力のスキルアップ ・ステップアップシートの活用 ②連携 ・進路だより発行1回 ・職場見学、体験実施 ・校内実習、現場実習実施 ・個別進路相談会実施 B ③余暇活動 ・図書室整備完了 ・利用ルールの周知 ・生徒会による図書活動開始 ・新入生全員入部	①働く力のスキルアップ ・JSP制度は2、3学期に活用 ・その他継続 ②連携 ・保護者の進路研修会実施 ・デュアル実習2学期から開始 ・その他継続 ③余暇活動 ・定期的な生徒会活動 ・クラブ活動の活性化	B ①働く力のスキルアップ ・JSP制度の活用により清掃スキルや就業意識が向上 ・ステップアップシートの活用促進 ・87%の教職員がステップアップシートを活用できたと回答 ・95%の生徒が目標をもって職業実習に取り組んだと評価 ②保護者や福祉、事業所との連携 ・福祉や事業所の協力を得て、保護者への情報提供や進路研修、相談会、事業所見学や現場実習見学を実施 ・全教職員が保護者への情報提供や共有に努めたと回答 ・95%の保護者が学校は保護者への情報提供を行い、他機関と連携して職業教育の充実に取り組んでいると評価 ③余暇活動の充実 ・図書室の整備完了。生徒会活動の一環で運用開始 ・クラブ活動は部員数が増え活性化。 ・軽音楽部は学園祭で演奏発表。 ・卓球、バドミントンは高知東ライオンズクラブから道具の寄贈あり ・パラバドミントンスクール実施	B ①生徒が目標をもって学習しているということが分かり、成長を感じる。 ②特別支援学校技能検定1級を目標にして頑張り、1級取得者が増えた。検定は生徒の励みになっている。 ③他機関と連携しながら実習等の進路指導を進めている。学校との情報共有はスムーズである。 ④余暇活動にも取り組んでいることが分かった。	①働く力に加えて生活する力を身に付け、希望する生活を送ってほしい。 ②継続 ・保護者や他機関との連携を深める。 ③継続 ・クラブ活動、生徒会活動が形になりつつある。 ・自分で考え、行動する機会を作る。
学校設定項目	地域貢献・地域防災 清掃活動等の地域貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高め、活動する意欲につなげる。 防災教育の充実を図り、危機管理意識の向上を図る。	【現状】 久万川周辺や近隣公園の清掃に取り組んだ。学園祭への参加やアルミ缶回収など地域の協力を得られた。 【目標】 ・地域清掃活動の定着:月1回以上 ・アルミ缶回収の継続:3Rの実践 ・学園祭開催:12月 SDGs 目標12	・地域清掃実施 ・アルミ缶回収の近隣への周知 ・3Rについて学習を計画実施 ・学園祭で地域感謝祭実施 ・学園祭開催の近隣への周知	C ①計画的に地域清掃実施 ・3Rについて複数の教科で学習	①学園祭の企画・運営 ・その他継続	A ①地域清掃活動の定着 ・久万川、学校周辺、近隣公園、公民館の清掃定着 ②リサイクル活動の継続 ・アルミ缶は地域、ペットボトルは龍馬学園の協力あり ・3Rについて、学習と実践で学習 ③学園祭開催 ・内容が充実し有意義な行事となり来客数は70名を超えた ○全教職員が地域連携に努め、95%の保護者がその取組を評価	A ①地域清掃は地域住民と協力できる。 ②リサイクル活動を通して学びがある。 ③学園祭の賑わいや生徒の良い表情は、これまで積み重ねた学習の成果である。	①継続 ・活動が充実するよう事前事後学習にも力を入れる。 ②地域と関わる機会を増やす。
働き方改革	教職員相互の思いやりと助け合いのある活性化された学校づくり	【現状】 初年度は少人数であり、個人が抱える業務量が多かった。教材フォルダ内に教材データを蓄積している。グループウェアの活用など効率化を図った。 【目標】 ・時間外勤務時間の削減:前年度比 ・教材フォルダの活用:授業準備時間の確保 ・休憩時間の確保:教職員相互意識の向上	①一人一人が担当業務を学年と分掌の業務量を合わせて調整する。 ②蓄積した教材データの活用により教材準備等の時間軽減を図り、さらに新たなデータの蓄積を推進する。 ③休憩を意欲してリフレッシュを図る。	C ①昨年度より教員数は増えたが、まだ少人数であり、個人が抱える業務量が多い。 ②昨年度蓄積した教材データを活用できることがある。	①業務量の見直し、効率化を検討 ②教材フォルダの活用は継続 ③休憩時間の意識は継続	C ①時間外勤務時間は昨年並み、長時間勤務者なし ・業務量の見直しや調整をしたが、多忙感をもつ教員が多い ・少人数のため一人が担当する業務が多岐にわたり量が多い ②教材フォルダは67%の教職員が活用していると回答 ・データ蓄積が今後の働き方につながるよう共有を図る ③休憩を意欲してリフレッシュできた教職員が半数に留まった ・全員が業務上の困りごとを抱え込まず誰かに相談できている	C ①教材フォルダの活用を進めることは、業務の効率化につながる。 ②働き方改革は難しいが、できることから続けてほしい。	①意識的にリフレッシュする機会を作る。